

目的 本研究においては、親子関係（内）が外との関係で交差・拡大していく状況一例
例えば子供集団への参加、祖父母との出会い、公園等の地域の人々との出会い、入院^他をとり
あげ、そこでの親子関係の発展過程を探求し、親子が第三者（人、集団）との三者関係
活動を展開し、子供が安定して自発的・創造的にふるまえる状況演出技法を開発する。

方法 参加観察法（乳幼児集団研究会、児童集団研究会）、心理劇法による。（Ⅰ参照）

結果と考察 実践の事実を媒介に集団状況との関係で親子関係がどのように変化してい
くかを関係学の5つのかわりー内在、内接、接在、外接、外在を参考にし、非言語動作
を重要視して13に類型化する。子供C、母M、状況ST



親子が未知の状況に参加する場合、内から外への移行過程において交差領域活動を展開
すること、子供の動きの変化に即して親が~~かわ~~わりながら親と子と状況の関係変化の過程
をこまかくつくっていくことが重要である。そこで親の補助・自発的役割行為、親と第三者
（保育者等）とのチームづくりを考慮して余白のある状況演出技法を開発する。例えば親
子が身体接触して安定し親が子の意識を外の状況に向けるきっかけをつくる。親子に見え
るところで保育者が演者的に振舞いながら自発的な参加を誘う彩や~~か~~状況をつくる。
その他。参考文献、松村康平他「適応と変革」誠信書房、「関係学研究」「幼児の性格形成」他